

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500106		
法人名	社会福祉法人 協同福祉会		
事業所名	あすならホーム畝傍 グループホーム		
所在地	奈良県橿原市大久保町287-1		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2990500106-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和4年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年同様コロナ禍で様々な制限がある中、ベランダで花を育てたり、壁画を一緒に作成する・季節にあった食事を企画する・大掃除などして季節を感じ楽しんでもらえるよう進めてきました。ベトナムからの技能実習生もいる事からテーマを「日本の文化にふれる」として日本の季節や祭事食・花見や七夕等々企画をしてきました。コロナ禍で面会にも制限がある中、SNSを活用してご自宅からでも日ごろの様子を見ていただけるようにしました。また、個々の入居者のニーズに応えられるようコミュニケーションを大切にしています。職員間で業務改善にも取り組み人に仕事がついてくるのではなく、どの仕事もチームで行えるよう改善しチーム力強化に務めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄の畝傍御陵前駅を下車して、歩いて数分の閑静な住宅地にある。同敷地内には、「小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「訪問看護ステーション」「ケアプランセンター」などを併設している。法人は「お年寄りから子供までが安心して暮らせる地域であってほしい」という理念を掲げており、事業所にも地域の人が入りやすい交流スペースを設けている。コロナ禍の中でも、理念をもとに利用者が楽しく暮らせるよう職員が丸となって取り組んでいる。地域の方々との連携強化に努め、地域社会において安心した生活を送ることができるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員学習会を月に一度行い、協同福祉の理念・考え方・方向性などを共有している。また、法人内の他グループホームとも実践例共有をしている。畝傍のGHでも目標を決め職員で仕事の分担なども話し合いながらすすめている。	毎年あすならホームの理念について、法人本部に集まって全体会議で学習しているが、今年度はコロナ禍でオンライン研修となった。事業所目標に「自立と自律」を掲げ、チームワークを大切にすると共に、職員自ら考えて行動できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで新たなつながりを探りながらも、週2回コープの移動店舗車が来る時間に青空相談室を開催し、介護の相談・体調の相談を受けている。今年度も奈良県の高齢者美術展へ出展する入居者もいて社会参加の機会を作っている	毎週火曜日にコープの移動店舗車が来て、近隣の人と利用者が集まり交流している。同時に近隣の人に対して青空相談会も開催し、ケアマネジャーや看護師が健康チェックなどを行って、気軽に相談にのっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	橿原市と協力してチームオレンジの活動を行っています。認知症サポーター養成講座にも協力しました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で以前のような形にはなっていないが、運営推進会議資料を毎月で橿原市に提出している。またおたよりに通して、取り組みを写真をいれてお知らせしたり個別の相談や状況報告を行っている。	2か月に1回開催していた運営推進会議はコロナ禍の為、事業所の取り組みなどの現状を家族に報告すると共に橿原市介護保険課へ提出している。ホームページでの公開も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催のオレンジカフェに参加しています。また橿原市のチームオレンジの取り組みを行っています。	橿原地域包括センターの認知症サポーター養成講座の講師を担当したり、地域のチームオレンジのサポーターに登録して活動している。地域のサポーターふれあいサロンで、感染予防や振り込め詐欺対策の啓発学習をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が法人主催の身体拘束についての学習会に参加できるようにしている。個々の入居者について月1回話し合うモニタリングを開催しケアについて適切に話し合う機会を設けている。	法人から出される身体拘束に関する資料で学習し、ビデオ学習も行っている。順番に利用者一人ずつのケア内容を話し合い、拘束がないかもチェックしている。原則玄関の鍵はしていないので、地域の方の見守りや協力を頂く時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が法人主催の虐待・虐待防止についての学習会に参加できるようにしている。個々の入居者について月1回話し合うモニタリングを開催しケアについて適切に話し合う機会を設けている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に活用されるような方はいないがご家族からの問い合わせなどには相談にのっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容・重要事項の説明・施設の特徴など、丁寧に時間をとって説明し契約していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族が施設に来られることも減っているが、面会時はもちろん定期的にご家族に電話で様子をお知らせしたりご意見をお聞きしている	家族との面会時間は15分位とし、衝立をしてマスク着用で行っている。家族の要望や意見は、定期的に電話で聴いている。Instagramに利用者の様子を上げ、遠方家族にも見てもらえるようにしている。ホーム便りには、本人のスナップ写真を載せて家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①2か月に一度の全体会議に参加してもらい学習や法人の運営に関する事・進めている方向性などについて確認している②GHの運営については年度の方角性を職員の意見をもとに作成し推進している。進捗は四半期ごとに振り返りながら調整している③年2回の個人面談も行い意見把握し運営に繋げている	管理者やサブリーダーは日々の業務の中で職員の要望や意見を聴いているが、年2回個人面談の機会も設けている。利用者の担当制にはどうか提案があった。外国人実習生の為に、日本の文化にふれると言うテーマが提案され、利用者を巻き込み取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一度の安全衛生委員会で職場環境の改善について話あっている。法人全体で職場内アンケートを行い意見集約し改善に務めている。労働組合アンケートも行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体では中途採用者研修・3年以上の職員ケア研修・全体会議では理念や方針の学習を行っている。事業所では個々に対応できるよう指導マニュアルにそって学習できるようにしている。また、各種資格取得に向けての学習支援金なども設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	橿原市の地域包括ケアシステム連絡会に参加し、市内の住まいのサービス管理者の方々と交流し、意見交換を行った。今後も継続予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活に慣れ、安心して暮らして頂けるよう、入居前ケア会議を実施。支援経過・モニタリングでの話し合いを行い入居後三か月程度でご家族と職員とでケア会議を行いケアの方向性を再確認している。入居後一か月は特に関係づくりを強化している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族の困っている事や不安・ご要望をお聞きし対応している。コロナ禍ではありますが必要に応じて細目に連絡をとりながら信頼関係に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容・要望を丁寧に伺いご利用の方の状態・希望にあったサービスにつなげられるよう努めている。また部門間の話し合い(目標達成ミーティング)の場でどのサービスに適しているかを検討する場も設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、掃除や洗濯など出来る事は役割を持って生活していただいている。また、これらに関しての感謝の気持ちを職員がしっかり伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会に制限がある中でも、好きな食べ物やほしいもの等を持って面会に来られている。テレビ電話(ライン)などを活用して交流をされている方もいます。定期的に日ごろの様子を撮った写真を送ったり電話で様子をお知らせしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍で一緒に食事に行くなど出来なくなった。ご家族・知人の方からの誘も控えられている。お手紙を送るなどして交流している。SNSを活用して日ごろの様子を発信し遠くの親戚の方が見ていただくなど喜びの声ももらっている	家族や知人に絵手紙を書いたり、頂き物のお礼などを送る支援をしている。日頃から利用者個々のスナップ写真を多く撮って、家族に送っている。事務所の一室にて出張散髪が来る。毎火曜日の移動店舗車の日は、販売員や近隣の方とも馴染みとなっていたが、コロナ禍で職員が代行して買い物を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	企画など活用して一緒に料理をつくったり、ゲーム・歌をうたったり、利用者間の交流の場づくりをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了しても、ご家族の状況を伺ったり、必要に応じて訪問している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用の方全員、月に1回モニタリングを行い、プランに沿ったケアになっているか。今の本人にあったプランなのかを話し合っている。本人のつづやきや行動を記録に残し本人にとってどうなのか、統一したケアが出来るようにしている	連絡ノートや支援経過の記録と月1回のモニタリング結果をもとに、本人の思いやニーズをくみ取っている。利用者がなぜそのような行動をするのか、本人に聴いたり職員みんなで話し合ったりして、さらなる思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅へ伺い本人の生活していた所を見に行きアセスメントをとるようにしている。生活歴・人となりがわかるような事を丁寧にお聞きするようにしている。これらを入居前に職員と共有できるように努めている。ケア会議の時も聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過・サービス記録などで職員間の情報共有を行い、モニタリングで再確認ケアに繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のモニタリングではケアプランを元に意見を出し合い統一ケア出来るようにしている。次月にこの内容の振り返りをして次に繋げている。職員からプランについての意見も出してもらい反映している	月1回、利用者個々のモニタリング結果を話し合っている。介護計画の更新時や変更時には、ケア会議を開いて、本人や家族の思いを大切に新たなプランを作成している。必要時には医師、看護師のアドバイスも受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は支援経過に記録し、モニタリングで共有。課題については意見交換しプランに反映する。都度振り返りながら次に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時必要に応じて同行し、様子を医師に直接お伝えしている。点滴などの治療が必要な時は訪問看護(特別指示書)を利用し入院せずに治療出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でも感染予防をしっかりと行いながら、選挙に投票に行く。自治体のとんどに参加。サプライズであがった花火を楽しんだり地域での生活を支援出来るようにしている。ご自宅の畑と一緒に野菜を作る計画をしたがコロナ禍でかわず、収穫したものを提供いただくに留まった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望で訪問診療・訪問歯科を利用し診察していただいています。ご家族の希望を医師に伝え治療方針・薬が変わるなども含めご家族には状況をお伝えしています。定期的な訪問診療以外にも必要に応じて往診していただいています	24時間対応できる内科の協力医が、各ユニット月1回訪問診療を行っている。看護師は週4日出勤して、利用者の病気のケアや健康管理を行っている。訪問看護ステーションも併設されており、安心である。訪問歯科も利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼で介護職・看護職ともに情報を共有し必要に応じて話し合いをしています。訪問看護とも定期的に情報交換しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会が出来なくなっているが、病院の地域医療連携室と密に情報共有できるように連絡をしている。早期退院に向けても、家族・病院と話し合いを重ね最善の退院日になるよう調整している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化は主治医・家族と共有し終末期に近い時は看取りについてのケア会議を行い、方向性を丁寧に確認している。コロナ禍で居室の入室に制限がある中でも看取りの時期は家族と一緒に過ごす時間を大切に出来るようにしている。	入居時に本人や家族と、終末期のあり方について話し合っている。終末期が近づいたときには、ケア会議に家族も参加して看取りのケアについて話し合っている。看取りがあるときは、職員全員が関わりを持ち学んでいる。管理者は、看取り後の職員の心のケアについても考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者別に緊急時の対応を記載したものを作成している(ご家族の意見を反映させている)ヘルパー会議・看護ミーティングなどの学習の時間を活用しAEDの作動確認・吸引器の場所など周知できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを全員に配布。年2回の避難訓練も実施。非常時の飲料水・食料・他備蓄。災害時の避難場所として施設をご利用いただけるよう地域にも発信している。夜勤者にも避難訓練に参加してもらっている	施設全体で、年2回の避難訓練を行っている。夜間想定模擬訓練も実施している。全職員が防災マニュアルを所持している。3日分の水や食料を備蓄しており、AEDも設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛け・スピーチロックになっていないかなど朝礼などを活用して確認しあっている。トイレ・着替えなどデリケートな対応はプライバシーが保てるように配慮している。	利用者への言葉かけは、普段から丁寧に行うことを職員間で共有している。トイレ誘導のときは、大きな声にならないように、さりげなく声掛けしている。着替えはプライバシーに配慮し、利用者の居室で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話の時間を大切に、やりたい事・希望もお聞きしながら可能な範囲で行動出来るようにしているがコロナ禍で行動に制限もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導のケアにならないように入居者の立場に立った支援が出来ているか、モニタリングの時間なども活用して意見交換している。その人らしさ・今までの暮らし方を尊重した支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る事は出来るよう支援し、出来る方はその日着るものなど自身で選んでいただいている。お出かけや病院受診などもお出かけ用の服に着替えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗・湯呑・マグカップ・箸などはご自身の使っていたものを持参していただき本人の物を使ってもらっている。また食事の準備・かたづけなども一緒に行い入居者主体で行っている	自宅から自分の御茶碗や箸を持参している方もいる。給食業者のクックチル方式の料理を温めて盛り付け、提供している。お花見御膳など季節の料理を、利用者と一緒に作ることもある。誕生日は本人の好物を皆んなで一緒に食べている。近隣から白菜、さつまいもなどの新鮮な野菜を購入し、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はその都度記録し総量をみながら水分補給できるように声掛けしている。バリエーションも工夫し、経口補水液・緑茶ティー・お茶ゼリー・夏場はかき氷など好みにあったもので水分がとれるようにしている(ご家族にも飲料の差し入れもお願いしている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、難しい方は介助している。定期的に歯科往診で口腔内の状況を医師にみいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の尊厳を守るためおむつは使用していない。定期的にトイレ誘導しトイレでの排泄介助を行っている。圧迫骨折の方は夜間はポータブルトイレを活用している	排泄チェック表を参考に、適切なタイミングで声掛けやトイレ誘導を行っている。布パンツのみ又は布パンツと尿取りパッドを使用して、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。便秘改善の為に運動や水分補給、ホットタオル等を行っている。夜間ポータブルを利用している方が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るように運動・水分にも気をつけ、必要に応じてお腹を温めたりマッサージしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で職員と1対1で入浴している。出来る限り個々の希望の時間で入浴していただけるようにしている。職員と会話しながらゆっくり入浴していただけるようにしている	浴室には、檜風呂があり、床には防水量が敷かれている。お風呂は毎日準備し、基本的に一人週2回、好きな時に入ってもらえるよう支援している。職員と一対一でゆっくりと入浴できるようにしている。息子さんが送迎して、自宅で入浴される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝遅めに起きる方・夜遅くまで起きている方などそれぞれに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医・薬剤師・看護師・介護職と連携して服薬支援を行っている。薬が変わった時などは状況を支援経過に残して経過をみて往診医に報告している。居宅療養管理指導で薬局とも連携している。また担当職員を決めて入居者の薬についても把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の食事・洗濯・掃除など出来る事はしていただいている。また、塗り絵が好きなど趣味を続けていけるようご家族と協力しながら支援している。書道を新聞に投稿したり作品を高齢者美術展に出展するなど社会参加できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でありながらもお花見・紅葉など人がいないところやドライブなどで季節を感じてもらえるよう外出の機械を支援している。定期的にお墓参りに行きたいをいう方の支援も行っている	年の初めに、3・4名ずつ大久保神社へ初詣を行った。人混みを避けて榎原運動公園や馬見丘陵公園にお花見に出かけている。また、事業所で花に水やりしたり、ベランダで外気浴をしたりしている。「大阪万博に皆で行こう」を合言葉にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップへ向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週火曜と土曜にコープの移動店舗車が施設の前に来ます。またコープの共同購入も利用しています。カタログを見ながらおしゃべりして、コロナ禍でも買い物を楽しんでいただけるよう支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方がラインの画像通話でご家族と話をしたりご家族に手紙を書いたり出来るよう支援している。またSNSを活用して遠くのご家族も入居者の様子がわかるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吉野の檜を使った和風のづくり。フロアは畳で掘りごたつもあり家庭的な空間になっている。フロアにテレビはなく静かに過ごして頂けるよう配慮している。お風呂の畳敷き・檜風呂で個浴のため温泉に行った気分が入浴出来る。	地域資源の活用として、奈良檜が建物に贅沢に使われている。照明は和紙で覆われ、フロアは畳敷きで和風な趣がある。利用者の体格に合わせ、高さの異なるテーブルと椅子が用意されている。共用部分には騒音となるものを避け、テレビは置いていない。飾り付けはシンプルにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・掘りごたつ等、個々のお好きな場所で過ごしている。またベランダで花を育てていて、季節のいい時はベランダで花を見て、お茶を飲みながらの時も楽しんでおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の使っていた馴染みの家具を配置するなど自分の空間を作ってもらっている。動線も考えながら手をつけるところを理学療法士と相談しながら作って安全も確保できるようにしている	部屋にはベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられている。カーテンの代わりに障子が嵌められている。自宅から使い慣れた家具や布団などを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯機を入居者が使えるよう手順を貼ったり、トイレの場所・自分の部屋の場所がわかるような表示を工夫したりしている。安全が確保できるような物の配置などには注意をしている。		